



小郡市立大原中学校だより

大為小積



令和3年 師走1日

第20号

校長 矢野 晴一

学校教育目標:「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」※「考動」

「新しいリーダーたちの誕生！」 令和4年度生徒会役員選挙

令和4年度 大原中学校 生徒会役員 (敬称略)

会長

副会長

11月17日(水)、来年度のリーダーを決める生徒会役員選挙が行われました。

立会演説会は、まだ体育館で行うことができないため、本年度も放送という形で行いました。会長候補ならびに副会長候補の子どもたちが、立候補した理由や自らの抱負を堂々と述べました。その後、投票、開票が行われ、令和4年度の大原中学校生徒会を牽引する新役員が決定しました。

スローガン「繫」を柱にして「つながり」を大切に

しながらさまざまな場面で頑張ってきた令和3年度生徒会の志を受け継ぎ、発展させることができるように、また、「こんな生徒会をつくりたい」「こんな大原中にしていきたい」という抱負を「初心」として、すてきな学校を創りあげてくれることを期待します。

これまで早朝や昼休み、放課後に自分の時間を削って選挙活動を支えてくれた選挙管理委員のみなさんに心からお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

【新生徒会長の抱負】

新生徒会長になりました。です。私は、「**みんなが校則を守り、安心して生活できる学校**」をめざしています。そのためには、どうすればみんなが「きまり」の大切さを意識してくれるのかを考える必要があります。そして、その答えは「**学級や学年の課題に向き合い、仲間とともに協力する**」ことによってみつかることができると思います。さまざまな困難があると思いますが、仲間とともにによりよい学校を創っていけるように頑張ります。これから一年間、よろしくお願いします。

まっすぐな 初心の思い しみわたる
川面に映る 月の如くに 晴一



「男子バレーボール部 躍動！」 筑後地区新人バレーボール大会開催

11月20日(土)、朝倉市立杷木中学校体育館にて筑後地区中学校新人バレーボール大会が開催されました。

初戦で惜敗という結果でしたが、子どもたちは元気に自分たちのもてる力を発揮し、コート内で躍動することができました。

「よーし！」の声高らかに、最後まであきらめない姿に、心から感動を覚えました。

これからも子どもたちのことを応援し続けていきたいと思っています。



『フェスタ』はできなかったけれど・・・！」

土曜授業で人権について考えました



11月13日(土)、本来ならば校区人権のまちづくりの取組として開催予定だった「リバティフェスタ」は行うことができませんでした。人が集まることが制限される中、なんとか人権について学ぶ場を設定することができないものかと担当を中心に模索を重ね、**小野アンリさん**をむかえての講演会を開くことができました。

1年2組の教室を拠点として、全教室、小学校等をオンラインでつなぎ、お話をうかがいました。対面とオンラインの画



面越しが混じる状況だったにもかかわらず、「**性の多様性と人権**」について、大人にも子どもにもわかるように工夫して話していただきました。

子どもたちは、みんな真剣に話を聴くことができていました。

「**決めつけないこと**」「**受け入れること**」「**認め合うこと**」がすべての人が輝くことができる世の中をつくっていくために大切だということを感じ、深く学ぶことができました。

【子どもたちの感想】

- 一人一人「みんな違う」ということを知った上で、みんなが互いに認め合える自由な社会をつくっていく一人になりたいと思いました。
- いろいろな人の考えを認め、支え合っていけるようになりたいと思いました。もし、悩んでいる人がいたら、受けとめて聴くことができるようになりたいです。
- 今日あらためて自分らしく生きていくことの大切さを感じました。誰もが安心して過ごすことができれば、明るい社会に変わると思うし、自分のありのままを知ってもらったり受けとめ合ったりしながら生活していこうと思いました。
- 人には人の数だけ考え方や感じ方があると知ったとき、これまで自分が知らないうちに人を傷つけていたのかもしれないと思いました。これから、自分の考えをおしつけるのではなく、相手の考えを聞いて受けとめることができる大人になっていきたいと思いました。

小さいけれど大きな感動 その20 「温かい空気・・・！」

講演会を行った後、校長室に講師をお迎えしたとき、続けざまに質問を受けました。

「大原中の子どもたちは、なぜあんなに真剣に話を聴いてくれたのですか?」「人権についての学習の土台がしっかりできているからですか?」「先生たちが事前に『ちゃんと聴かなくちゃいかんよ』と強く言われていたのですか?」「いや、それにしても会場や学校全体の空気が温かかったんですね」と、出会った子どもたちの姿や大原中学校内に流れている空気感について、どんどん質問されました。

私は、ひと言、「先生たちが大きな声をあげて指導することはほとんどありません。いつも通りの姿です。」と答えました。

あらためて、「**人権とは、私たちが生きていくために欠かせない大切なもの**」と考えるならば、「**人権とは、空気だ**」と言えるのかもしれませんが。来校された方が感じた温かい感覚は、大原中学校に流れている互いの人権を大切にしようとする空気のような感覚だったのかもしれませんが。

大原中学校は、「**自らを語る**」文化を大事にしています。自らを語るためには「**それを聴く、受けとめる、支える**」文化を必要とします。

これからも、子どもも職員も、みんなで力を合わせて**温かい空気**をつくっていききたいと思います。